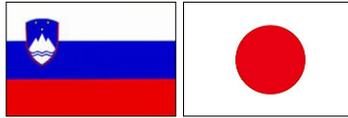


# 派遣報告会



## 次 第

平成30年12月16日(日) 14時~15時30分  
市役所コラボホール

1. 開 会 (オープニング映像)
2. 教育長あいさつ
3. 事業報告
  - ・ 報告書の説明
  - ・ スライドの上映 (高校生の交流記)
4. 高校生感想発表
5. 意見交換
6. アンケート結果報告
7. 閉 会 (エンディング映像)

妙高市教育委員会

## はじめに

スロベニア共和国のスロヴェニ・グラデツ市と妙高市は、2001年9月に姉妹都市調印を行ってから17年目を迎え、これまで様々なかたちで親交を深めてきました。なかでもこの高校生交流につきましては、平成14年～17年度にかけて行われた新井高校とスロヴェニ・グラデツ高校の交流事業を皮切りに、一時期の休止を経て、平成20年度から妙高市の高校生を対象にした事業として再開し、両市の間では高校生交流が一番大切な事業となっています。

今後ますます国際化が進む中、妙高市の子どもたちが世界水準で活躍し、共生社会に適応していくためには、異文化やコミュニケーションを実際に体験し、お互いの理解を深めていくことが重要です。

今回派遣した12名の高校生は、事前学習から熱心に取り組み、また、テーマである「自然」についてプレゼンテーションし、妙高市の魅力を伝えてきました。また、滞在中は、異文化に対する理解を深めるとともに、ホームステイなどを通じて、遠く離れたスロベニアの人々とかけがえのない結び付きを作り、両市の友好の懸け橋となったことは、大変誇らしいことでもあります。

当事業での経験を成長のきっかけとし、自らの夢や目標を叶える力に変えてくれることと信じております。

最後に、妙高市の代表としてがんばってくれた高校生の皆さんと、当事業の趣旨を理解し、協力して下さったご家族や各高等学校長の皆様に心より感謝を申し上げます。そして、この交流を支えてくださっているスロヴェニ・グラデツ市及び妙高市の関係者の皆様にも感謝申し上げますとともに、この交流事業が末永く続くために今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年12月

妙高市教育委員会

教育長 川上 晃

平成30年度 スロヴェニ・グラデツツ高校交流事業 訪問団構成

●派遣高校生

No	名前	かな	学年
1	丸山 菜緒	まるやま なお	2年
2	増村 秀香	ますむら ひでか	2年
3	青木 晴子	あおき はるこ	2年
4	佐藤 順子	さとう じゅんこ	2年
5	竹田 葵	たけだ あおい	2年
6	丸山 怜華	まるやま りょうか	2年
7	桑山 昂大	くわやま こうだい	1年
8	大宮 来音歩	おおみや ことあ	2年
9	宮崎 瑠那	みやざき るな	2年
10	武田 七虹	たけだ ななこ	2年
11	宇崎 大樹	うざき だいき	2年
12	笹原 莉乃杏	ささはら りのあ	2年

●市関係者

No.	名前	所属
1	大野 敏宏	妙高市教育委員会 生涯学習課 課長補佐
2	カルメン・フバレッツ	妙高市教育委員会 外国語活動コーディネーター
3	清水 朋美	妙高市教育委員会 生涯学習課 主事補

## 訪問日程

日次	月／日 (曜日)	時 間 (現地時間)	行 程
1	10／17 (水)	15：45 16：00 16：30 16：45 22：00頃	出発式（妙高市役所） 妙高市役所 出発 妙高高原支所 到着 " 出発 羽田空港 到着 出国手続き
2	10／18 (木)	00：10 05：20 09：20 10：30  PM	羽田空港 出発（NH203） フランクフルト 到着（経由・入国手続き） " 出発（JP117） リュブリャナ 到着 その後、スロヴェニ・グラデッツ市へ スロヴェニ・グラデッツ市到着後、各ホストファミリー宅へ
3	10／19 (金)	AM          PM	スロヴェニ・グラデッツ高校で交流会 ○スロヴェニ・グラデッツ市の高校生のプレゼンテーション ・「自分と家族の紹介」 ・「スロベニアとスロヴェニ・グラデッツ市の紹介」 ○妙高市の高校生のプレゼンテーション ・「自己紹介」 ・「自然をテーマとした妙高市の紹介」 ①妙高市全体の紹介 ②四季ごとに妙高市の自然を紹介 (3人1組で4グループ発表) ワークショップ ○折り紙 ○植物図鑑づくり スロヴェニ・グラデッツ市長表敬訪問 スロヴェニ・グラデッツ中心部（旧市街地）見学 ワークショップ ○ヘルシー食事づくり  ホストファミリー宅へ

4	10/20 (土)	AM PM	リュブリャナ市見学  ポストイナ鍾乳洞見学 ホストファミリーごとにブレッド湖またはピラン町見学 ホストファミリー宅へ
5	10/21 (日)	AM PM	ホストファミリーと過ごす  ベレニェ湖見学（湖畔の植物など学習） トポルシチツァ温泉地で温浴体験 ホストファミリー宅へ
6	10/22 (月)		オーストリア ウィーン見学 シェーンブルン宮殿、フルデントヴァッサーの公共住宅、 聖シュテファン大聖堂、ホーフブルグ宮殿など見学 スロヴェニ・グラデツ市到着後、ホストファミリー宅へ
7	10/23 (火)	AM PM	スロヴェニ・グラデツ高校で授業参加 送別会 ・ミニコンサート ・市長、校長、参事官あいさつ ・ホストファミリー感想発表 ・立食パーティー
8	10/24 (水)	09:00 11:00 13:25 14:45 18:05	リュブリャナ空港へ出発 リュブリャナ空港 到着 搭乗手続き " 空港 出発 (JP112) フランクフルト 到着 (経由) " 出発 (LH716)
9	10/25 (木)	12:15 13:00 18:00 18:30	羽田空港 到着 入国手続き 羽田空港 出発 妙高高原メッセ 到着 (妙高高原の生徒解散) 妙高市役所 到着 (解散)

ホストファミリー 組み合わせ一覧

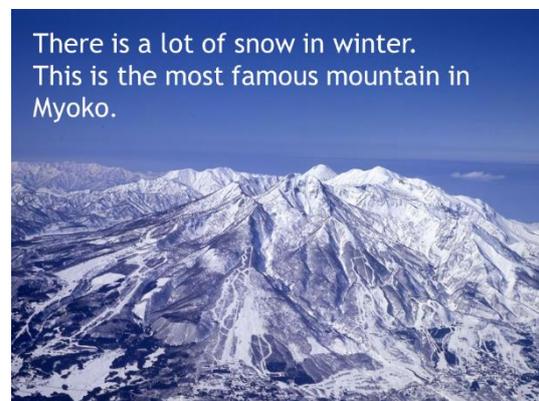
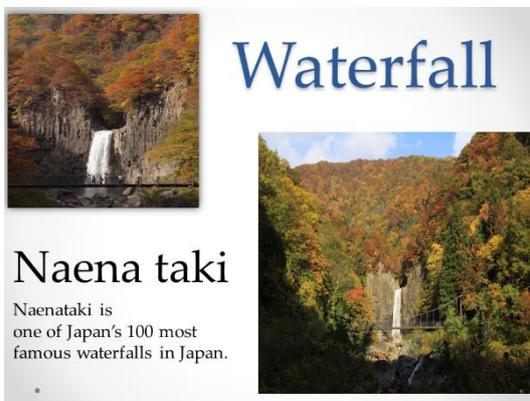
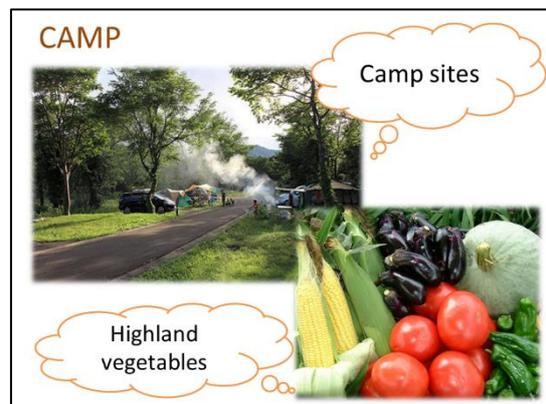
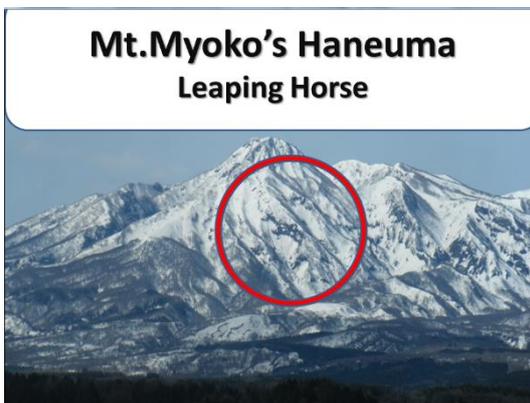
No	スロヴェニ・グラデッツ高校生	派遣高校生 (妙高市)
1	イエレン クリジョーニック ネイジャ JELEN KRIZOVNIK NEŽA	まるやま なお 丸山 菜緒
2	ヴェロホーニック ラナ VERHOVNIK LANA	
3	マーラハルト イネス MARHART INES	ますむら ひでか 増村 秀香
4	ヴェイチコ ズィヴァ VECKO ŽIVA	あおき はるこ 青木 晴子
5	セケレッシュ ハナ SEKERES HANA	さとう じゅんこ 佐藤 順子
6	ヴェラドニック ズィヴァ VERDNIK ŽIVA	たけだ あおい 竹田 葵
7	ヴィドヴィッチ アナ VIDOVIČ ANA	まるやま りょうか 丸山 怜華
8	ファイムット アヤ FAJMUT AJA	くわやま こうだい 桑山 昂大
9	ペロヴェッツ ウラ PEROVEC ULA	おおみや ことあ 大宮 来音歩
10	アラムシャック カヤ RAMSAK KAJA	みやざき るな 宮崎 瑠那
11	シュタレカル カヤ ŠTALEKAR KAJA	たけだ ななこ 武田 七虹
12	コイゼック ニック KOJZEK NIK	うざき だいき 宇崎 大樹
13	ズドウツ アナ ZDOVC ANA	ささはら りのあ 笹原 莉乃杏

## 事前説明会・学習会

事前説明会	7月28日(土) 19:00~20:00	自己紹介、事業概要説明
第1回学習会	8月22日(水) 19:00~20:00	プレゼンテーション等学習
第2回学習会	9月1日(土) 9:00~17:00	市内視察
第3回学習会	9月29日(土) 13:30~15:00	プレゼンテーション等学習
最終説明会	10月6日(土) 19:00~20:00	詳細説明、持ち物等確認



▲現地でのプレゼンテーションのため、妙高市内の自然見学や、英語を使っての自己紹介などを行いました。この活動を通して、集まった派遣生同士の親交が深まりました。



▲共同学習のテーマである「自然」を四季ごとに紹介。妙高市の自然を3人1組でプレゼンテーション資料を作成しました。

## 交流記

### 10月17日（水） 1日目 妙高市役所から羽田空港へ

いよいよ出発の日。妙高市役所に集合し、羽田空港へ向かいました。

市役所前で出発式。派遣生代表の丸山さんが訪問にむけた抱負を述べ、保護者と市役所職員の方から見送りをさせていただきました。



### 10月18日（木） 2日目 羽田空港からスロベニアへ

▼深夜0時50分発全日空NH203便に乗り、フランクフルトまで約12時間のフライトです。



◀フランクフルト空港で乗り換え  
アドリア航空JP112便でリュブリャナ  
へ約1時間のフライトです。



### ▲リュブリャナ空港に到着

空港には、スロヴェニ・グラデツ高校生や先生方が大勢で出迎えてくださいました。バスでスロヴェニ・グラデツ市に向かい、昼過ぎに到着。

▶その後はそれぞれホストファミリーと過ごしました。



## 10月19日（金） 3日目 高校訪問と市役所表敬訪問

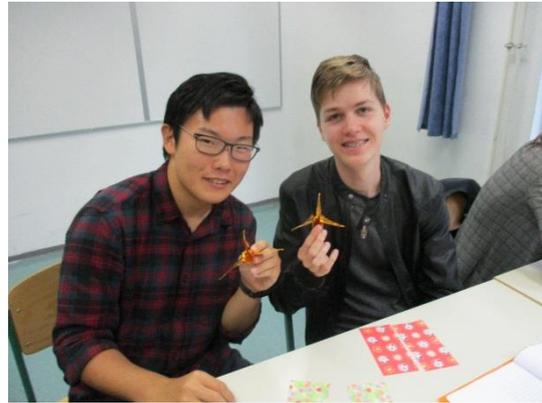
▼高校の入口には交流事業でのペアの名前や歓迎の言葉が描かれたボードが飾られており、中に入ると生徒の皆さんが花道を作り、拍手で出迎えてくれました。





▲互いの国、市についてプレゼンテーションを行いました。発表後にはスロベニアの国営放送の取材を受けました。

▼開会式の後には、ワークショップ。折り紙や植物図鑑づくりをペアで行いました。日本の折り紙に皆さん興味津々で、高校生同士さっそく打ち解けている様子でした。



▼植物図鑑づくりでは、高校周辺の樹木などを日本語・スロベニア語・英語の3か国語で記しました。





▲午後からはスロヴェニ・グラデツ市の  
チャス・アンドレイ市長を表敬訪問。  
派遣生を代表し、丸山さんが英語で  
挨拶をし、市役所前で記念撮影をしま  
した。



▼市の中心部（旧市街地）を散策しました。





▲スロヴェニ・グラデツ高校の教室でハーブを使用したパテやハーブティーを作りました。

## 10月20日（土） 4日目 スロベニア見学

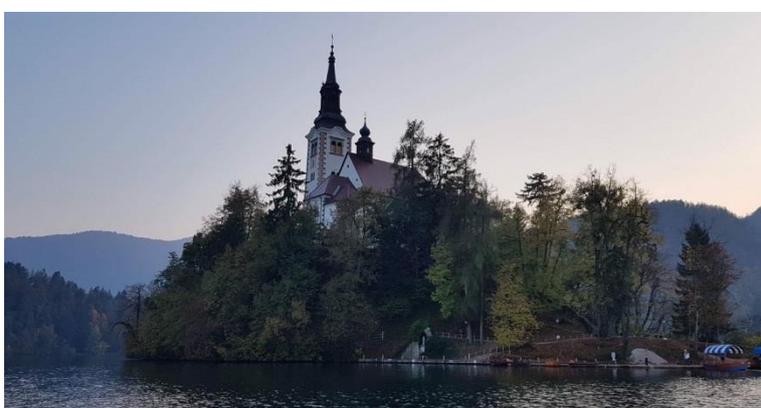
▼ホストファミリーと一緒にスロベニアの首都リュブリャナ市を見学しました。



▼世界的に有名なポストイナ鍾乳洞を見学しました。神秘的な鍾乳洞の内部をトロッコに乗って見学しました。



▼ホストファミリーごとにピラン町とブレッド湖のどちらかを見学しました。



▲ピラン町

◀ブレッド湖の教会

10月21日(日) 5日目 ベレニェ湖見学、温浴体験

▼午前中はホストファミリーと過ごしました。



▼午後からは共同学習テーマの「自然」について学習しました。ベレニェ湖の湖畔を散策しながら、植物や樹木について学びました。



▼トポリシツァ温泉地を見学し、温水プールでの温浴体験をしました。



## 10月22日（月） 6日目 オーストリア ウィーン見学

早朝6時にバスで出発。バスの中では先生からオーストリアの歴史や文化について説明を受けました。先生の説明をスロヴェニ・グラデツ市の高校生が妙高市の高校生へ伝え、お互いに理解を深めながら学習しました。

▼最初はシェーンブルン宮殿を見学。サマーハウスとして使用されていた広大な敷地の中には動物園や迷路、日本庭園等が整備されていました。





▼シェーンブルン宮殿内の迷路を体験。みんなで協力しながらゴールを目指しました。



▼有名建築家フルデントヴァッサーが手掛けたユニークな公共住宅を見学。



▼ホーフブルク宮殿の見学。ハプスブルク家の居城だった宮殿を歩いて見学しました。



▼最後にウィーンのシンボルである聖シュテファン大聖堂や市街地を見学しました。



## 10月23日（火） 7日目 高校で授業参加

▼高校でペアごとに分かれて、各クラスの授業に参加。日本の言葉や文化をスロベニアの高校生たちに伝えてきました。





▼ホストファミリー達が集まり、送別会を開いてもらいました。高校生の演奏の後、校長先生や市長、在スロベニア日本大使館の参事官から挨拶をいただきました。高校生代表として竹田さん、佐藤さんが交流について発表し、全ホストファミリーから一言ずつ感想をいただきました。



▼記念に写真をたくさん撮り、最後の夜を楽しみました。



## 10月24日(水) 8日目 スロベニアを出発～帰国

▼朝、スロベニアを出発し、昼前にリュブリャナ空港へ到着しました。ここで7日間一緒に過ごしたホストファミリーともお別れです。みんな別れを惜しんでいました。



▼そのあとは飛行機で日本を目指して出発。フランクフルト空港で乗り換え、羽田空港へ帰国、バスに乗り換えて妙高へ向かいました。

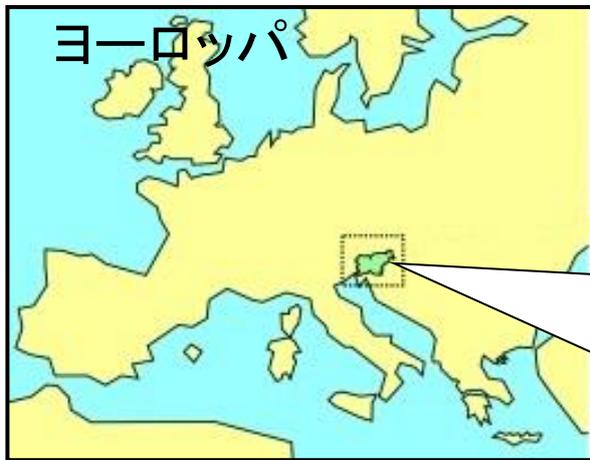


～訪問団の皆さん、1週間大変おつかれさまでした！～

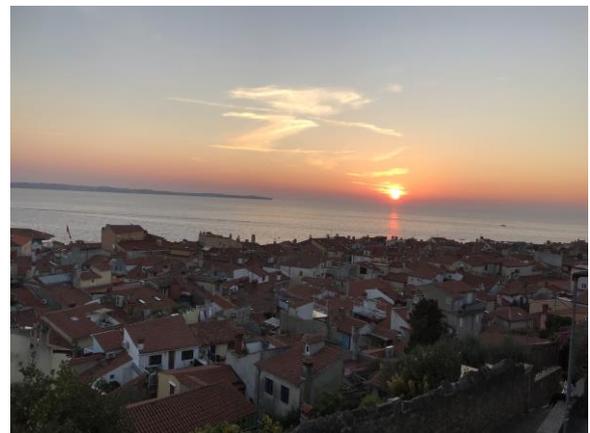
# スロベニアってどんな所？



スロベニアは中央ヨーロッパに位置し、アドリア海とも面した国です。



- ◆面積: 約2万km<sup>2</sup> (四国と同じくらい)
- ◆人口: 約 206 万人(日本は約 1.27 億人)
- ◆通貨: €ユーロ
- ◆公用語: スロベニア語(英語、イタリア語、ドイツ語等の外国語を話せる人も多い)
- ◆宗教: ローマ・カトリック教が多い。
- ◆地形: 鍾乳洞が多く、ポストイナ鍾乳洞など全長20kmを超えるものもあります。カルスト地形も有名でスロベニアのクラス地方が語源といわれています。



ピラン町



クレント・ヴァニエの様子

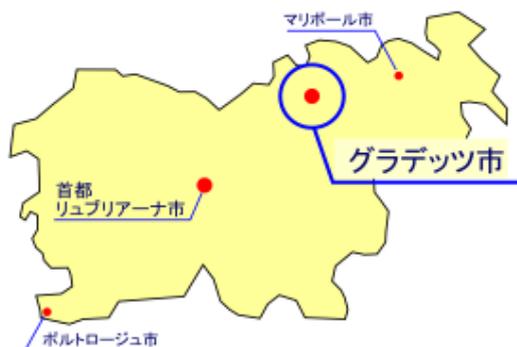
## ◆スポーツ

国内に数多くのスキーリゾートがあり、スキーをはじめとしたウィンタースポーツが盛んです。妙高市との交流もスキーがきっかけでした。また、バスケットボールも欧州有数の強豪国とされています。

## ◆イベント

2月下旬に冷たく寒い冬を追い出し、温かい春の訪れを祝うために行われる「クレント・ヴァニエ」というスロベニア最大の冬のお祭りが開催されます。スロベニアの伝説の生物「クレント」に扮した人々がベルを鳴らしながら町を歩きます。

## 姉妹都市 スロヴェニ・グラデッツ市



- ◆人口:約 17,000 人
- ◆面積:約250k㎡
- ◆姉妹都市  
ゴールニ・ミラノヴァチ市(セルビア)、モールフ市(キプロス)、チェシキ・クロンモオ市(チェコ)、フェトラクトル市(オーストリア)、ハウツェンベルグ市(ドイツ)、[妙高市\(日本\)](#)

### ○歴史と文化のまち

- ◆スロヴェニ・グラデッツ市は昨年750周年を迎えたスロベニア最古の町の1つです。
- ◆中世期には文化的に栄えました。美術や工芸の名匠達が活躍し、多くの芸術家たちが制作活動に励んだ芸術の宝庫で、街中の教会等からもその様子が伺えます。
- ◆スロベニア独特のコゾルツィ(干し草かけ)、古い農家、礼拝堂、古い水車場や製材所など、スロベニアならではの古い建築物も今に伝わっています。



スロヴェニ・グラデッツ市



## スロヴェニ・グラデッツ高校

- ◆4年制高校(おおむね15歳から18歳)
- ◆全校で約250名の生徒が在席
- ◆平成 14 年より妙高市の高校と交流を行っている。



日本との交流 20 周年記念の桜の木

## スロヴェニ・グラデツ市に行って学んだこと

丸山 菜緒

私はスロヴェニ・グラデツ市に行ってたくさんの体験をしました。いつもとは全然違う生活を送り、気づいたことがたくさんありました。

まず、妙高市と違う点を見つけました。その中でも一番驚いたのは食文化でした。量から食べる時間帯、回数も違っていました。量がとても多く、ずっと食べていました。手作りをすることが基本的で、朝食のパンを手作りしたり、ビーフスープの麺も手作りでした。りんごやぶどうを育てていたり、家畜もいました。自家製のリンゴジュースを作ったりもしました。街にはおしゃれな喫茶店、パン屋さんがあり、高校終わりの学生が入っていくのをたくさん見ました。食べるのが好きな人が多いんだなと思いました。

違う点をたくさん見つけた中で、共通点もありました。それは自然が豊かで人々が優しいところです。妙高市でもよく見かける杉や桜の木がたくさんありました。学校にある桜の木の前には石碑があり、日本語で書いてある文章を見つけました。そしてホストファミリーは出会った初日から私を家族のように迎えてくれました。彼女たちは私が困っている時すぐに手伝ってくれたり、私が話す英語がなかなか通じない時も一生懸命、意味を汲み取ってくれました。彼女たちは「これは日本語でなんて言うの？」とたくさん聞いてくれたりとても日本の文化に興味を持ってきていました。私にもスロベニアの言葉を教えてくれてとても楽しかったです。みんなが優しく暖かい家族でした。ホストファミリーとの毎日の生活はとても楽しく充実していました。

私は、ヨーロッパにある日本からとても離れた国でたくさんの共通点、違う点を見つけました。スロヴェニ・グラデツ市も妙高市もそれぞれたくさんいいところがあります。スロヴェニ・グラデツ市のいいところを見つけたことで、妙高市のいいところが再確認できた気がします。この経験は私にとってかけがえないものとなり、学んだことを将来に活かしていきたいです。



## 海外に行って

増村 秀香

私は中学生のときに姉妹都市協定を結んでいるところへ行きました。そのときに別の国の空気に触れてとても良い体験ができたので、またそういう体験をしたいなと思いました。高校1年生の時に友達が受け入れをするといい、来年は私達が行くと聞いて今回の事業に参加しました。

中学生のときは携帯を持ってなくて当日までどんな人かわからない状況でした。なので、ホストファミリーからメールが届いたときはとても嬉しかったです。メールでお話していると当日が楽しみになってきました。

その日がやってきました。初めて見たホストファミリーのイネスさんはとても輝いて見えましたが(今もですが)。この人と一週間過ごすと考えたらワクワクしてきました。ですが、普段から英語を喋らないので、会話でとても緊張してしまって上手くいかないことがたくさんありました。身振り手振りでやったり、翻訳アプリを使ってなんとかやったりと自分の準備不足に悩まされてばかりでした。しかし、イネスさんや、他のホストファミリーの人達は、私の気持ちを汲み取って、理解してくれました。それがとても嬉しくて、嬉しくて、だんだん話す勇気が湧いてきて、小さなことでも、少しでも会話をしようと私なりに頑張ってみました。

観光名所は本当に素晴らしかったです。見渡す限り周りに新しいことが溢れていて、今でも写真を見てそのときの出来事を昨日のように思い出します。日本にはない建物や多くの銅像や石像、来て良かったと思いました。

最終日間近、私は風邪をひきました。仲良くなった日本人の友人に助けをもらい、ホストファミリーに風邪のことを伝えることができました。私は本当に嬉しくて別れが辛くて閉会式の立食パーティーのときに座りながらひとりで泣いていました。立ってイネスさんに会いに行ったら抱きしめてくれて、ずっとこうしていたいと思いました。来年は彼女が日本に行くと言っていました。私の家は受け入れできるかわからないですが、もし、また彼女に出会えたら、そのときは私から抱きしめにいきたいです。



## 忘れられないこと

青木 晴子

スロベニアでは体験したことは決して忘れることのできない、素晴らしいものです。ホームステイをした一週間は本当にあつという間でとても短い時間を感じられました。ここには到底書ききれない、たくさんの学びと思い出でいっぱいです。

今回の交流事業を通してスロベニアと日本の違いだけでなく、人の優しさにふれました。ホストファミリーはとても温かく迎えてくれて、ホストファミリーの高校生、ジバちゃんは私の拙い英語から意図を汲み取り、私が理解するまで待っていてくれました。また、お父さんやお母さんは私が行きたいと行っていたデパートに連れて行ってくれたり、身長が足りなくて（笑）、景色が見えない時には高いところに上がらせてくれました。おばあちゃんやおじいちゃんは美味しい料理を食べさせてくれました。ホストファミリーだけでなくレストランなどで出会った方々も一つ一つを優しく丁寧に教えてくれたので安心してホームステイを楽しむことができました。



スロベニアで特に心に残っていることは、ホストファミリーだけでなく他の高校生との交流です。ホストファミリーの高校生はもちろんですが、他にも仲の良い友達ができ笑いが絶えることがありませんでした。たくさんの場所へ行きましたが、空いた時間に仲良くなった6人で公園で遊んだことはとても印象が強く「私たちは大きな子供だね！」とジョークを言いながら楽しみました。日本にはない遊具があり、とてもはしゃいだことを覚えています。今もお揃いのオオカミのストラップを見るだけで楽しかった思い出が蘇ってきます。むしろ、日本にいる時より自分らしくいられたような気がしました。それは、日本にいる時に比べて積極的にコミュニケーションを取ろうという姿勢を持っていたからだと思います。また、スロベニアという言葉も文化も違う場所でこんなにも積極的に

いられたのだから大丈夫！という気持ちで日本でももっと自分らしく過ごしていきたいです。

日本に帰るのは本当に寂しく、離れがたかったですが、また来年日本で再会できることを願って、もっと英語を勉強しようと思います。

今回このような機会をいただけて本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました。



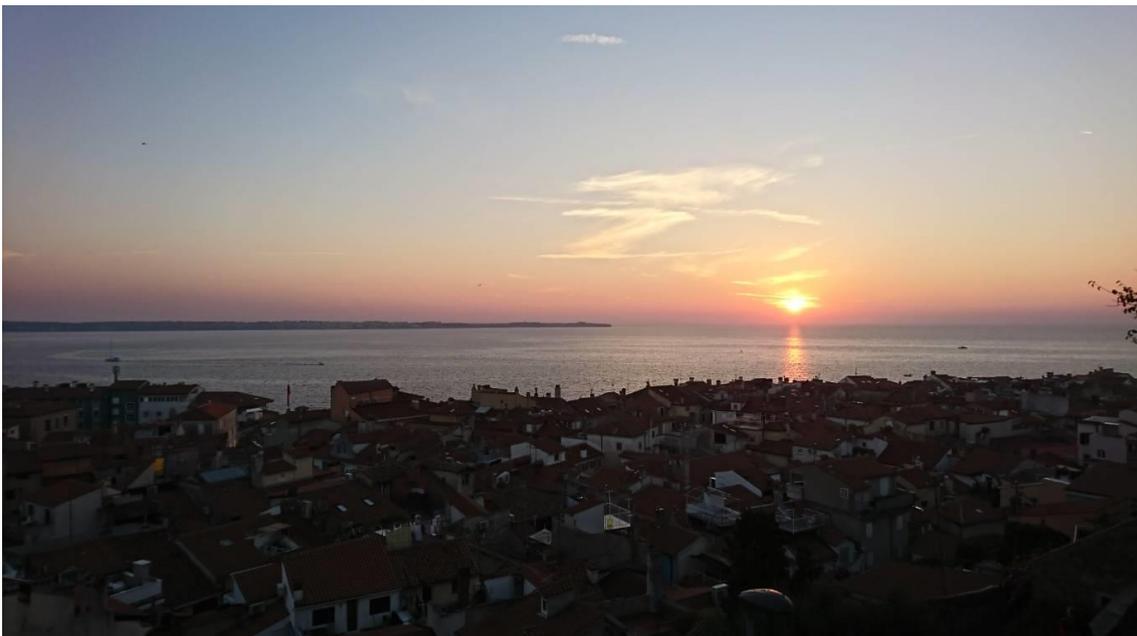
## 交流事業で私が感じたこと

佐藤 順子

今回のスロベニアと日本の高校生国際交流は私にとって忘れられない経験となりました。ホームステイは今までにしたことがないので、ホストファミリーとの言葉の違い、生活習慣の違いなど、出発前は色々な心配なことがあって、今回の活動について何日も前からずっと緊張していました。しかし、バスの中で新しい友達と仲良くなって、たくさん話を話して掛けて、不安がだんだんなくなりました。空港内でも、飛行機内でも、友達と一緒に遊んだり、おいしいアイスクリームを食べたりして、行きの長い時間でもつらいと感じませんでした。スロベニアへ行くことが楽しく感じました。

リュブリャナ空港に着くと、初めて会うホストファミリーと互いに自己紹介し、家でたくさんのお土産とお菓子を贈りました。ハナのお母さんは、食べたことのないエビ煎餅にとっても驚いたように見えました。ハナの家族は親切で安心しました。ハナの家で一週間一緒に生活しました。軽い朝食と昼食、早く寝るなど、意外な生活習慣があったけれど楽しく過ごしました。一週間の中で、ポストイナ鍾乳洞、ピラン町、ウィーンなど多くの場所を訪れました。想像よりも美しい風景を見たり、食べたことのないものなどを食べたり、一週間がとても短く感じました。もっと滞在したい、おいしいものを食べたいと思い、またスロベニアに行こうと決心しました。

交流を通して思ったことの一つ目は「百聞は一見に如かず」です。行く前にたくさん調べたけれど、実際に行くはずいぶん違っていました。二つ目は人生で様々な人と出会い、新しいことに挑戦することで、まだ知らない自分を発見し、もっと良い自分になることが出来るということです。私は今回の交流によって、自分の未来の生き方についてもう一度考えるつもりです。最後に市役所のみなさんに、出発前の準備と途中でたくさん助けられたこと、家族と先生たちにいつもサポートしてもらったことを感謝します。夢のような一週間を過ごしました。ありがとうございました！



## スロベニアで私が得たこと

竹田 葵

私は去年スロベニアから来た二人の女の子をホストファミリーとして受け入れました。それまで異国の文化には興味があったものの「スロベニア」という国についてほとんど何も知りませんでした。ですが彼女たちを通じてどんな学校生活をしているのか、どんな町に住んでいるのかとても興味を持ちました。

事前にホストファミリーとやりとりをしたり、国について調べたりしましたが出発の時がかかるいろいろなことが不安でした。しかしスロベニアに行くまでの移動で日本の高校生とも仲良くなり、だんだんと実感がわいてきて好奇心の方が大きくなりました。リュブリャナ空港につくと、ジバが日本語で「ようこそ」と書いてあるボードをもって出迎えてくれました。そのときはうれしい気持ちが大きかったのですが緊張もしていました。だけれどバスでお互いの自己紹介をしあったり、バスから見える景色を説明してくれたりといつのまにか緊張がほぐれていました。言いたいことがなかなか伝わらないときもありましたがジェスチャーと笑顔があれば大丈夫でした。私はホストファミリーとたくさんの場所を見学しました。スロヴェニ・グラデツ、リュブリャナ、ベレニェ湖、たくさんの教会など、それらは私にとって全てが初めてでとても興奮しました。もちろん移動で車の外に見える景色やたくさんの自然にも魅了されました。そびえたつ山、広大な緑そしてそこにいる牛や馬、羊など全てが美しかったです。

これらのスロベニアでの経験ができたのも、たくさんの協力があったからです。ですので、たくさんの人々に感謝を強く感じる機会ともなりました。日々支えてくれている家族、温かい食事や家での生活を手助けしてくれたホストファミリー、市役所のみなさんには本当に感謝しています。ありがとうございます。これからもこの気持ちを忘れずに生活していきたいと思います。



## 高校生国際交流事業を通じて学んだこと

丸山 怜華

私は、姉妹都市間における交換留学生事業に参加して、様々な知見を得ました。そこで学んだことを二点、ご紹介させていただきます。

まず一点目は、文化面とそれにおける人々の意識の同異です。妙高市には数々の寺や神社が今もなお存在しているように、スロヴェニ・グラデツ市にも教会がありました。そういった歴史的な価値のある建造物が今もなお存在することは、両市の共通点であります。しかし、それらに対する人々の意識は相違点があります。私の滞在したお宅の高校生は、彼女の通う高校の裏手にある教会について、建造された時代から歴史まで事細かに説明してくれました。私は妙高市の神社などについて、彼女のように説明することはできません。私にとって地域の文化は、あまりにも密接でありすぎた故に、認識することこそが不可能であったからです。そこで、私は異文化の理解には地域の文化を知ることが不可欠であると痛感しました。何故なら私たちは、異文化を故郷の文化と比較することで認識し、理解するからです。そして、若い世代が地域の文化に関心を持ち、上の世代から教わり、次の世代へ語り継ぐという文化の継承が、いかに重要であるかを理解しました。

二点目は、生育環境と人間性の同異です。生まれ育った国が違うならば、法律や治安、文化、さらには衣食住の環境が違うことは当たり前です。例えば、日本では蕎麦の実を粉にして麺状に加工し、茹でて食べますが、スロベニアでは蕎麦の実は炊いたり、粉末状にして牛乳に入れたりします。このように、両国、両市の環境には相違点が数多に見つかります。しかし、共通点もあります。それは、ただの人間であるということです。私は、ホストファミリーと同じ瞬間に笑い、同じ瞬間に泣いたように、同じ瞬間に同じ感情を抱きました。そこには国籍の違いなどは関係ありません。たとえ地域差は多少あるとしても、人間の本質は等しいのです。言葉の壁も、宗教や信条の相違も、文化的価値観も、豊富に蓄えた知識でさえも、全て後付けでしかありません。私たちはわかり合うことができるのです。

この事業により得た発見は、私が普段の日常生活を送っていたら、愚かにも気づかずにいた巨大な盲点を突いてくれました。この機会を与えてくださった妙高市役所の皆様、スロヴェニ・グラデツ市の皆様に、深く御礼を申し上げます。そして、一番近くで支えてくださった家族に深く感謝致します。



## 妙高市交流事業で感じたこと

桑山 昂大

今回の交流事業で日本との文化の違いについて学びました。学んだ文化の違いは、食生活であったり、ものに対する価値観であったりしました。また日本と同じように家族を大切にしているのを見て、どこの国でも家族を大切にすることを知れました。

スロベニアの人との交流で学んだこと。スロベニアの高校生と交流して僕は自分の同級生や、日本で今まで関わって来た人とは違う価値観を学ぶことが出来ました。今まで日本の中の価値観だけだった自分には、スロベニアの人の価値観はとても新鮮でした。今回自分が知ることの出来た海外の人の価値観はあまり多くは無いですが、ここで触れることが出来た自分はとても幸運だと思います。これから自分も少しずつ海外の方に会っても日本の方と同じように接して行けるようにしたいです。



これからに生かしたいことは、これから社会はどんどんグローバル化が進んで行くと思います。そして、グローバル化が進めば進むほど海外の方と一緒に仕事をする機会が増えていくと思います。そこで今回の交流事業で学んだことを生かして行きたいです。

今回の交流事業は自分にとってとても学ぶものの多い事業でした。今回、交流事業に参加して新しい友達も出来ました。ここで出来た縁をこれからも大切にしていきたいです。



## 初めてのホームステイを通して感じたこと

大宮 来音歩

今回のスロヴェニ・グラデツ高校交流事業が、私にとって初めての海外、そしてホームステイでした。

このホームステイを通して私が最も意識したことは、「できる限り自分の力でコミュニケーションをとり、現地の人と関わる時間を増やす事」です。私は決して英語が得意ではありません。実際、ホストファミリーに会うまでは、コミュニケーションを上手にとる事ができるか不安な気持ちでいっぱいでした。しかし私の拙い英語に耳を傾け、自分の国について丁寧に教えてくれるスロベニアの皆さんに負けないよう、誰よりも積極的に質問し、日本について伝えようと努めました。思いが上手く伝わらず、大変な思いをすることもたくさんありましたが、この意識が私のホームステイを充実したものにしてくれました。

また、スロヴェニ・グラデツ市の皆さんと関わっていく中で、彼らの愛情深さと積極性、感謝する心に強い感銘を受けました。特にスロベニアの方達の自分の興味を伝える力・相手を知ろうとする気持ちは、私だけでなく、日本人に足りていないものだと思います。このホームステイを通して得たものを、これからの自分にどう活かしていくか・周りに伝えていくかを考えていきたいです。

ホストファミリーと過ごしたスロベニアの日々は、何にも変え難い大切な体験になりました。本当の家族のように迎えてくれたホストファミリーはもちろん、この事業に参加させてくれた両親や、一緒に活動してきた訪問団のみんなにも感謝したいです。そして今度は、自分が日本の魅力を伝えることが出来るようになりたいです。



## 交流事業を通して

宮崎 瑠那

今回、私はスロベニアへの派遣高校生として、とても貴重な経験をさせていただきました。海外へ行くことへの好奇心と、小さい頃から習っていた英語が果たして通用するのかという疑問から、この交流事業に参加することを決めました。もちろん不安もありましたが、本当によかったと言えるような交流になったと思います。

空港に到着し、それまでメールのやりとりしかしていなかったバディのカヤと初めて会った時は、とても感動しました。あちらが積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれたこともあり、緊張もいくらか和らぎました。

まずはじめに私が驚いたことは、皆自分の国や住んでいる地域のことを熟知していたことです。ホストファミリーに家の周りを案内してもらった時も、リュブリャナに行った時も、彼らは丁寧に説明してくれました。ここで、自分が妙高のことをスロベニアの皆に上手く伝えられるか考えてみると、彼らには遠く及ばないと思います。改めて、郷土のことを知ることがいかに大切かを気づかされました。

また、人々の暖かさを感じることができました。カヤをはじめ、ホストファミリーには本当にお世話になりました。ホームステイをしている間、いつも気にかけてくれて、安心して過ごすことができました。それゆえ、最終日に近づくにつれて、「帰りたくない」という気持ちもどんどん強くなっていきました。出発の前日にみんなで泣いたことは、今ではいい思い出です。その他にも、来てよかったなと思えるような場面がたくさんありました。人の暖かさは、万国共通なのだと感じました。

私が一番心に残っていることは、閉会式での家族毎の発表の際に、カヤが泣いてくれたことです。それまで我慢していましたが、つられて私も泣いてしまいました。たった一週間でしたが、かけがえのない友達ができたと実感した瞬間でした。

この交流事業では、文化の違いをはじめ、様々なことを学ぶことができました。スロベニアの自然や人々の暖かさに直に触れ、忘れられない思い出も数え切れないほどたくさん出来ました。これから、語学の勉強に励むとともに、今回のたくさんの出会いに感謝して交流を深めていきたいです。最後に、貴重な経験をさせていただいた市役所の皆さん、本当にありがとうございました。



## 交流事業で経験したこと

武田 七虹

スロベニアに行く前、憧れであったヨーロッパに行くということでもとてもわくわくしていました。そんな中、スロベニアに到着し、コミュニケーションの難しさを感じたり、日本とスロベニアとの文化や習慣の違いを発見したりすることができました。



最初にスロベニアに着いて思ったことは、街の景観がとても綺麗だということです。空港からホストファミリーの家に着き、それから、山の上のほうにあるカフェへ連れて行ってもらいました。そこから見下ろした街は周りを自然で囲まれていて美しく、ヨーロッパらしく感じました。そして、後日には湖に行きました。その湖は日本では見たことがないような綺麗な湖でした。そこでは、小さな船に乗って湖を渡れて、良い思い出となりました。

また、スロベニアでの食事は、日本との差を多く感じました。スロベニアでは食事が多すぎると感じるような量が出され、それを残すことが普通らしく、驚きました。ホストファミリーとレストランに行ったときに、ホストマザーのもとに1枚の大きなピザが出され、それを8等分に切って食べるようなのではなく、ナイフとフォークで端から食べているのを見たときは驚きました。また、私のホストファミリーは、パンケーキなど多くのものにチョコを塗って食べていました。カフェに行ったときはほっとチョコレートがありました。見た目はコーヒーのようでしたが、とても甘く美味しかったです。

ホストファミリーは、私にたくさんの経験をさせてくれました。おばあちゃんの家に行き、伝統のアコーディオンの曲を聴かせてくれたり、伝統の踊りを教えてくれました。また、積極的に私に話しかけてくれて楽しく過ごせました。本当に良い家族に巡り合えて嬉しく思います。

しかし、スロベニアでは楽しいことばかりだったわけではなく、英語が聞き取れなかったり、通じなかったりすることがあり、大変な思いもしました。今まで学校の英語の授業では、日本語の訛りがあっても意思疎通はできていたため、それほど発音は問題に思っていませんでしたが、スロベニアに行き、それでは通じないということを痛感しました。これからは、発音を課題に英語を勉強していこうと思います。このスロベニアとの交流事業を通し、様々なことに気付いたり、たくさんのことを学んだりすることができました。今までお世話になった方々への感謝を忘れず、今後この経験を活かして過ごしていけるよう努めます。



## 派遣留学生としての活動を終えて

宇崎 大樹

僕がこの交流に参加しようと思った理由は、人と交流するのが好きで異国の文化に強い関心があったからです。参加するにあたって現地の高校生とうまく意思疎通できるか、また一緒に行く派遣留学生とも仲良くなれるかなどいくつかの不安の念を抱いていました。ですが今になってはそんな心配も必要なかったな、と思います。

乗り継ぎのため着陸したフランクフルト空港に到着したときは6時でした。日本を出発したのは真夜中で、約12時間ものフライトだったにも関わらず6時間しか経っていないことに少し混乱しました。日本との時差は7時間あり、いつも寝ている時間に活動するのは体力的に辛い部分も始めはありました。

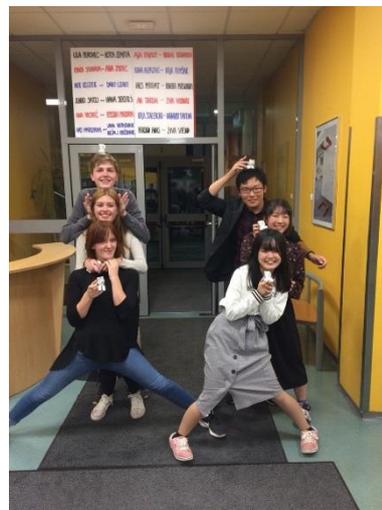
スロベニアにつき、初めてホストファミリーと会いました。僕は人と仲良くなるのが取り柄なので持ち前の明るさを生かし、家族だけではなく他の生徒たちとも気軽に名前呼び合う仲になりました。

ホストファミリーの家に着き、初めてのスロベニア料理を頂きました。食卓には日本では見たことのない量の量が並び、驚きました。お父さんは大柄な人なのでこの家庭だけ特別多いのかな、と思っていましたがほかの人の話を聞くとなんと殆どの家庭で大量に食事がでるらしいのです。量が多く、油ものが多い食事でしたがやはり酪農が盛んなヨーロッパ、乳製品も油ものも濃厚でくどさがなく、いくらでも食べられるのではと思える程に美味しかったです。

スロベニアの町は自然とともにあり、至る所で様々な樹木が植わっていて、森の中には野ウサギやヤマネコやシカなどの野生動物が数多く住んでいることに驚きました。

今回のテーマである「自然」の活動として学校の周りの木について調べるという活動で校舎前にサクラの木があることを知りました。サクラ、というとやはり日本を連想するらしく、僕にいくつかサクラに関しての質問をしてくる人もいました。そんな質問から日本の生活様式や文化を教えたり、逆にスロベニアのことを教わったりして、多くの違いがあることに驚かされました。

そんな活動を通して感じたことは「百聞は一見にしかず」ということです。僕の地理の教科書にはスロベニアのカルスト地形が乗っています。先生が細かく説明ししてくれましたが、やはり教科書や映像ではなく現地に行き自分の目で見るのは断然別物だと感じました。今回の交流を通して非常に多くの事を知り、異文化の理解や興味が深まりました。今後はこの経験を生かして国際理解活動や異文化理解活動などに積極的に参加し、活動団体に協力をしていきたいです。



## スロベニアでの交流を通して

笹原 莉乃杏

私は今回のこの体験で、たくさんのことを学び得ることができました。特に感じたのは、色々な人とコミュニケーションを交わすことの楽しさと、人の温かさです。これまで、一人でホームステイをするような体験はなく、さらに、自分とは違う言語を話す人と一週間も過ごすということにはとても不安がありました。しかし、異国の地で自分がまだ知らないことを体験したい、多くのことを学びたい、そんな思いがこの不安を吹き飛ばしてくれたように思います。

私が今回ホームステイした学生の両親は、二人とも英語を話すことができませんでした。そのために、何か伝えたいことがあるときは、一度学生に英語で伝え、それをスロベニア語に訳してもらう必要がありました。しかし、実際に私も直接会話をしたいと思い、スロベニア語の「Hvala(ありがとう)」と、「Dobro jutro (おはようございます)」を覚え、使ってみました。すると、笑顔で「いいね、すごい！」と答えてくれ、すごく嬉しかったのを覚えています。言語が違うから、分からないから、と諦めるのではなく挑戦してよかったなと感じました。

現地のスロベニアでは、ヨーロッパということもあり、街の景観や建造物、食べ物など、普段見慣れないものがたくさんありました。私が特にすごいと感じたのは、教会です。スロヴェニ・グラデッツ、リュブリャナ、ウィーンなどで見つけ、中はとても広く、綺麗な彫刻が多くありました。教会の中では、自らろうソクに火をつける事ができるスペースがあり、私もそれを体験しました。薄暗い空間でその光を見ると、とても素敵な気持ちになりました。

長い旅の中で、車を使って長時間移動する 때가多くありました。山に沿った形の道路が多かったため、私は途中気分が悪くなってしまいました。そんな時、「大丈夫、あなたのせいじゃないから」と声を掛けてくれ、さらに「彼の（ホストファーザー）の運転が荒いからだよ」などのジョークで場を和ませてくれました。また帰宅後も、「体調が悪い時に飲むといいんだよ」と、ハーブティーを飲ませてくれました。その後体調は治り、ホームステイの最終日には、その日に飲んだ紅茶のティーバックを持たせてくれました。自分でもどうしたらいいのか分からない状況でも親身に寄り添ってくれ、人の温かさに触れた瞬間だな、と感じました。

普段の自分では、中々体験することのできないような貴重な時間を過ごすことのできた一週間でした。空港で迎えてくれた時から、現地の伝統的な料理を食べたこと、公園やショッピングセンターへ行ったこと、一週間分のアルバムを貰ったこと、そして空港で号泣したこと…。他にも挙げきれないぐらい、本当に沢山の素敵な思い出ができました。今回の姉妹都市交流で出逢った、日本の学生やスロヴェニ・グラデッツ高校の学生、ホストファミリーやその親戚の方など、みなさんに伝えきれない程の感謝の思いでいっぱいになりました。

本当にありがとうございます。Hvala !

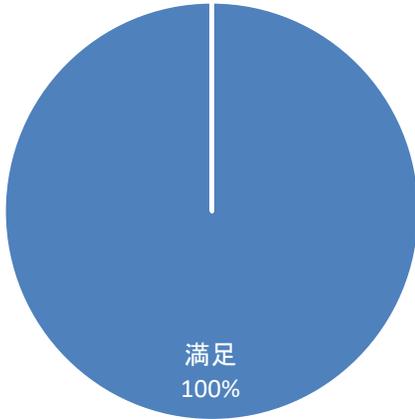


# スロヴェニ・グラデツ高校交流事業に関する参加者アンケート結果

アンケート実施日:11月13日～26日

回答者:派遣生12名

## 1. 当事業は満足のものでしたか。



### 【理由(抜粋)】

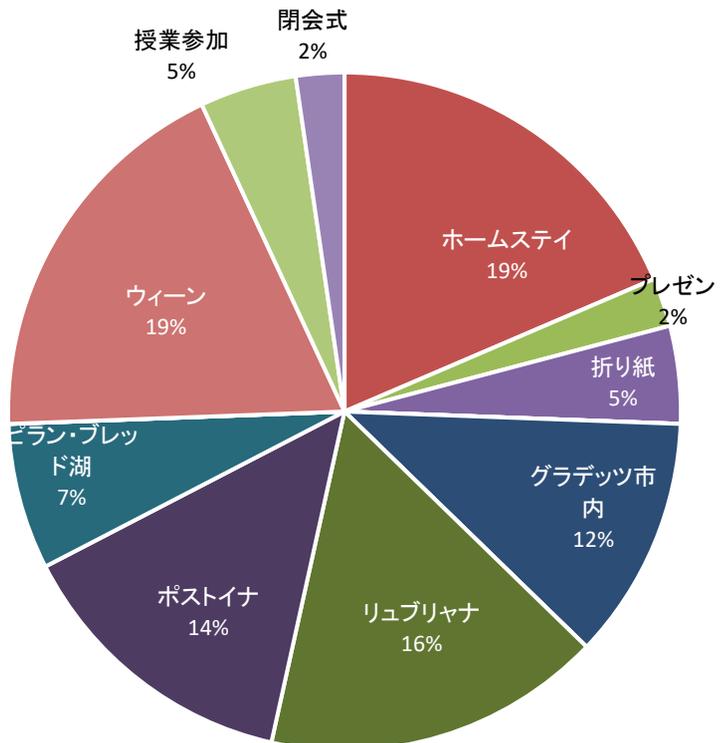
○短期間だったが、一生忘れられない思い出になった。文化・人ともに、とても素敵な国だった。

○予想以上！すごく楽しかったです。チャレンジして一歩踏み寄ることが大切でした。

○ホストファミリーや現地の高校生とのコミュニケーション等を通して、スロベニアの文化や慣習に触れることが出来たため。

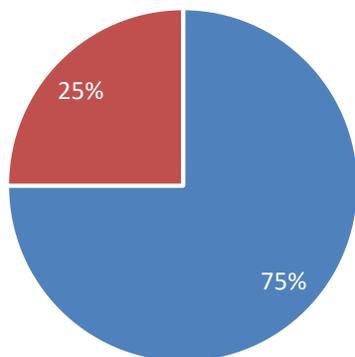
## 2. 今回の交流で印象に残っているものはなんですか【複数回答】

出発式	0
ホームステイ	8
プレゼンテーション	1
折り紙	2
植物図鑑づくり	0
市役所表敬訪問	0
グラデツ市視察	5
ヘルシー食事づくり	0
リュブリャナ市視察	7
ポストイナ鍾乳洞	6
ピラン町・ブレッド湖	3
ベレニェ湖	0
トポルシチツァ温泉	0
ウィーン	8
授業参加	2
閉会式	1
送別パーティー	0



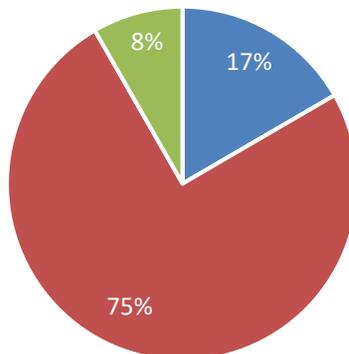
### 3. 当事業は自らの成長に効果があるものになりましたか。

#### コミュニケーション力



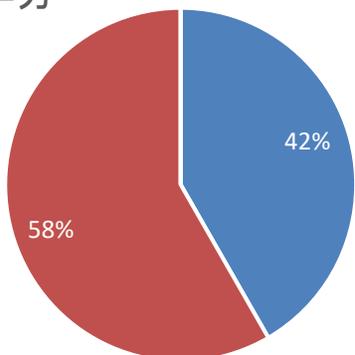
- 大きな効果があった
- 効果があった
- あまり効果がなかった
- 効果がなかった

#### リーダーシップ



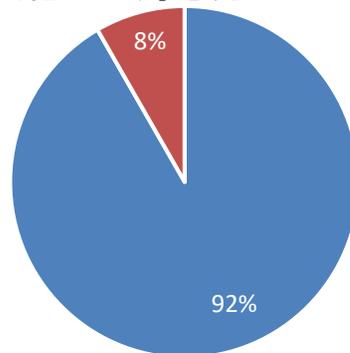
- 大きな効果があった
- 効果があった
- あまり効果がなかった
- 効果がなかった

#### 語学力



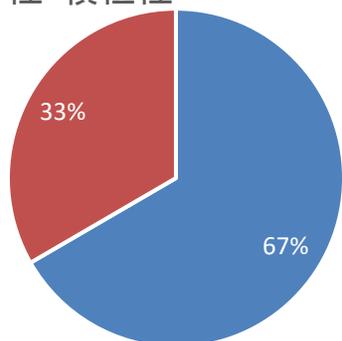
- 大きな効果があった
- 効果があった
- あまり効果がなかった
- 効果がなかった

#### 異文化への対応力



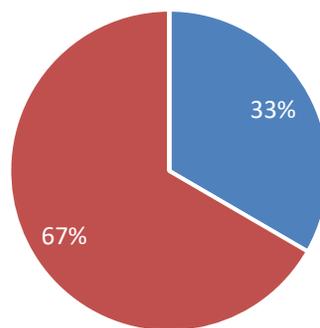
- 大きな効果があった
- 効果があった
- あまり効果がなかった
- 効果がなかった

#### 主体性・積極性



- 大きな効果があった
- 効果があった
- あまり効果がなかった
- 効果がなかった

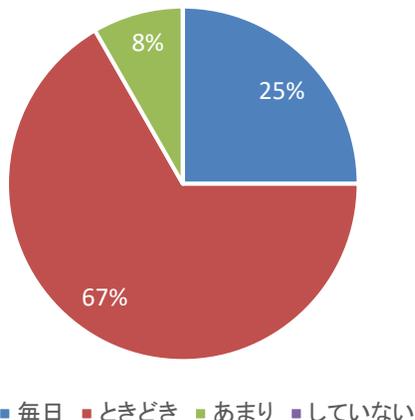
#### 自分に対する自信



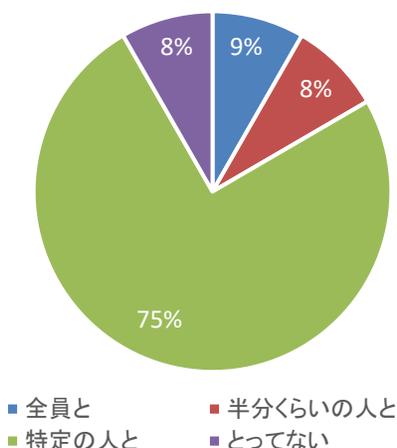
- 大きな効果があった
- 効果があった
- あまり効果がなかった
- 効果がなかった

#### 4. スロヴェニ・グラデッツ高校生や参加者同士で連絡をとっていますか。

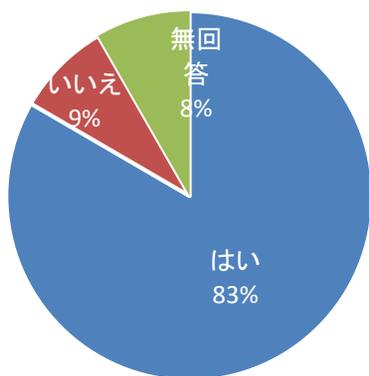
スロヴェニ・グラデッツ高校生



参加者同士



#### 5. 来年度はスロベニアの高校生を受け入れたいと思いますか。



##### 【理由(抜粋)】

○彼らは日本にとっても興味があるみたいだったので、彼らがしてくれたおもてなしをしてあげたい！

○今回、スロベニアの人と交流したのは自分だけ だけど、家族にもしてほしいから。

○受け入れは、家のスペース等の関係で難しいが、時間を合わせて、一緒に過ごしたいです。

#### 6. 事業に参加して感じたこと、学んだこと等

○言葉が通じなくても、生活の仕方や衣食住の面で大きく違っていても、結局はみんな同じ人間で、その距離なんかは関係ないのかもしれないな・・・と思いました。

○中学生の時にも交流事業に参加して、ホームステイと受け入れを体験しましたが、今回は思っていたよりもたくさん話せたし、友達になれたと思います。言葉がわからなくてもジェスチャーで伝えられたり、気の持ち方で、コミュニケーションも取れると思いました。本当に楽しくて忘れられない時間でした。

○外国の人とのコミュニケーションは楽しく、難しいということを感じ、英語の重要性に気付かされたので、これからはより英語の学習に力を入れて学習したいと思った。

○日本では出来ない経験をたくさんし、教科書や本では学びきれない文化や風習など、生活に関することを実際に学べた。

平成30年度

妙高市スロヴェニ・グラデッツ高校交流事業 派遣報告書

2018年12月 発行

発行者 妙高市教育委員会 生涯学習課

〒944-8686 妙高市栄町5-1

☎0255-74-0035 Fax0255-72-3902

E-mail ; syogaigakushu@city.myoko.niigata.jp